

(計画の趣旨)  
 ・東北地方太平洋沖地震とその後に来た巨大津波(以下「今津波」という。)による大きな被害を受けた被災地である。  
 ・災害に強いまちづくりを進める一方策として、防災に関する情報や標識を「防災サイン」として整備するための基本的な考え方をまとめたもの。

(計画の位置づけ)  
 ・「石巻市地域防災計画」を上位計画とし、「石巻市津波避難計画」の内容を踏まえて策定。  
 ・防災サイン設置等の整備については、本計画後に策定予定の実施計画において定め、サインの整備を進める。

(計画の特徴)  
 ・今津波による被害を受け、津波災害に対する防災サインを主眼とする。  
 ・本計画は今津波の浸水実績に基づき策定。

上位計画

「宮城県津波対策ガイドライン」宮城県 平成26年1月  
 「津波避難のための施設整備指針」宮城県 平成24年3月

「石巻市地域防災計画」石巻市 平成26年12月  
 「石巻市津波避難計画」石巻市 平成25年1月

既住の規格 (JIS, ISO)

JIS Z 8210 (案内用図記号)

JIS Z 9097 (津波避難誘導標識システム)

ISO/TC223 WG3 TG Public Warning Color-Coded Alert

1章 基本的考え方

1-1 被災経験をとおして  
 被災地であることを前提に、地理的特性と被災形態、避難行動の関係などを踏まえた計画。

1-2 将来に向けて  
 今津波の記憶を持たない人々が被災しないことを目指した計画。

1-3 避難のための日常学習  
 災害、防災について日常的に学習する場を創出し、防災に対する意識啓発を世代を超えて行うことも重点を置いた計画。

2章 現況把握

2-1 現地調査  
 (市街地エリア)  
 ・避難誘導が煩雑になる可能性  
 ・避難先への入口がわかりにくい  
 ・渋滞により避難行動に支障が出る可能性  
 (北上川河口エリア・リアス式海岸エリア)  
 ・高台移転する地区がある  
 ・過去の津波碑が活かされていない  
 (市街地エリア・北上川河口エリア・リアス式海岸エリア)  
 ・避難目標地点が可視化できていない

2-2 都市構造、被害状況把握  
 ・津波の浸水域の大きさ  
 ・都市構造と浸水深の関係性  
 ・都市基盤による地区の分断  
 ・浸水深と被害状況の関係性

2-3 住民ヒヤリングの実施  
 ・来訪者や住民に対し親しみやすいサインのありかたが望まれている  
 ・記憶継承サインの整備には、参加型プロセスが望まれている  
 ・想定される避難可能時間で避難できない困難地域がある  
 ・避難行動は、今津波の経験を基としている  
 ・今津波の経験が避難経路選定に活かされている  
 ・避難経路は集約、一元化できない  
 ・指定避難場所に限らず、多様な場所を避難先として選択している  
 ・津波避難場所、避難所の区別が理解されていない

2-4 課題整理

- ・地域特性、浸水域、危険度に応じた情報伝達方法
- ・避難目標地点や浸水範囲を可視化すること
- ・避難経路や避難方法が集約できない場合の情報伝達方法
- ・避難先の入口、経路を的確に伝えること
- ・避難場所、避難所の種別など、防災に関する知識の習得を助けること
- ・市街地における車避難の規制、浸水域内への車両進入の抑制方策
- ・まちににぎわいを生み出す情報と、防災情報の連動方法(住民参加型や来訪者体験型など)
- ・今津波を将来に伝承すること

3章 基本方針

「避難」、「記憶」、「にぎわい」のみちに基づいた「防災サイン」

避難のみち : 発災時の避難を安全に実現するため、避難先への避難を行う際に使用される可能性が高い道。

記憶のみち : 今津波の恐ろしさを後世に伝えるため、想定される最悪事例として今津波の浸水域を基に、浸水実績の軌跡を結ぶ道。

にぎわいのみち : 避難の危険度の目安として、また、防災対策として将来の土地利用の区分けのラインとして、今津波の浸水域のうち、浸水深が2m以下となる地点を結ぶ道。

4章 基本計画

4-2 避難のみちサイン計画

- ・「避難のみちサインシステム」
  - 注意・警告サイン : 地域(現在地)の危険性を伝える
  - 避難情報サイン : 主体的で迅速な避難を促す  
災害、防災等についての日常学習の場の提供  
防災に対する意識啓発
  - 避難誘導サイン : 避難先への誘導を行う
  - 避難先サイン : 避難先を顕在化する

4-3 記憶のみち・にぎわいのみちサイン計画

- ・テーマ : 「語り継がれるための仕組みづくり」  
「来訪者に安全・安心とまちの魅力を見せるための仕組みづくり」
- 「記憶のみちサイン」  
今津波の記憶や津波の恐ろしさを後世に伝え、津波の危険性が極めて低くなる境界を伝える。
- 「にぎわいのみちサイン」  
まちの観光情報、まちの魅力などを防災情報とあわせて伝え、来訪者に楽しみと安全・安心なまちであることを伝える。